

## オータムキャンプ in 淡路島

- 1 趣 旨：子供達の自己肯定感の向上や、生活習慣の改善等につながる多様な体験を提供し、自立する力を身に付けることを目指す。
- 2 主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家
- 3 場 所：国立淡路青少年交流の家（兵庫県南あわじ市阿万塩屋町 757-39）
- 4 連携先：社会福祉法人 神戸市母子福祉たちばな会
- 5 日 程：令和6年10月12日(土)～10月13日(日)
- 6 対 象：小学1年生以上の親子 ※未就学児の参加については要相談。
- 7 参加人数：31名（内訳：子供15名、保護者11名、たちばな会役員5名）

### 8 プログラム内容

#### 10月12日(土) 【1日目】

##### 【開会式】 11:30～12:00

はじめに、「オータムキャンプ in 淡路島」での趣旨について確認し、目標設定を行った。参加者は小学生低学年が半数だったが、「自分のことは自分でする」「子供達で協力して取り組む」「ひとつでもできることを増やす」ことを目標とした。



##### 【館内オリエンテーリング（大人）】 13:00～14:00

昼食のあとは、大人と子供で別れて別の活動を行った。大人は館内オリエンテーリングを行った。各グループ自己紹介をした後、積極的にコミュニケーションをとりながら問題に取り組んでいた。

【レクリエーション（子供）】13:00～14:30

講堂で、法人ボランティアの自主企画としてレクリエーションを行った。最初の活動のため、体を動かしながらコミュニケーションがとれる内容で行った。参加者は初対面であったが活発に取り積む姿が見られ、全員が仲を深めることができた。



【藍染め（大人）】14:00～16:30

大人は研修支援プログラムの一つである藍染めを行った。参加者は完成形を予想しながら夢中で取り組んでいた。「初めての経験で楽しかった」「形に残る思い出が作れて嬉しい」といった声が聞かれ、お互いの作品を見せ合いながら自然と会話が弾む姿を見ることができた。



【野外炊飯（子供）】15:00～19:00

「子供達だけで、大人達の夕食も作る」ことを目標に、3つのグループに分かれてカレー作りを行った。初めて包丁を握る、料理するといった子供が多くいたが、職員やボランティアに自分から分からないことや次にすることを聞き、グループの一員として協力する姿を見ることができた。「お母さんの大変さが分かった」「これからは沢山お手伝いをしていきたい」といった声が聞かれた。親が見に来た際には自分ができたことを話している姿が見られ、自信を深めるとともに親のありがたみについて考える機会になったことが伺える。



【保護者交流会 (大人)】 19:30~20:30

子供達がキャンプファイアーを行っている姿を少し離れたところで見つつ、保護者達で普段の悩みを出し合ったり、相談したりした。普段の生活の様子の話や、お互いの悩みについてお意見を伝え合う姿が多く見られた。「みんな頑張っていて自分もまた頑張ろうと励みになった」「他の保護者の話がたくさん聞けて良かった」などの声があり、有意義な時間だったことが伺える。

【キャンプファイアー (子供)】 19:30~20:30

暗くなってからは子供達を中心に、吹上浜で焚き火をしながらいくつかのレクリエーションを行った。普段味わえない景色を楽しみながら、全ての子供が一緒になって仲良く活動する姿が見られた。



10月13日 (日) 【2日目】

【ストーンペインティング】 9:00~10:30

れき浜で石拾いをした後、研修室でストーンペインティングを行った。参加者は大きささまざまな大きさや形の石を探す姿が見られた。ペイントで時間をかける参加者もいれば、装飾をして個性的な作品を作る参加者など、様々だった。子供達は、お互いの作品を見せ合う姿が見られ、参加者同士の仲が深まっていることが伺えた。



### 【うずしおクルーズ】 13:30～14:30

福良港より出港している「うずしおクルーズ」に乗船した。2日間の日程の中で一番楽しみにしていた参加者が多かった。当日は多くの渦潮を見ることができ、参加者は満足していた。乗船中はいくつかの家族が集まって、船からの景色や渦潮を一緒に見ている姿が見られ、家族間の仲が深まっていることが伺えた。



### 【閉会式】 15:00～15:20

福良地区公民館で閉会式を行った。「思い出をたくさん作ることができた」「最初は緊張していたけど、2日間楽しむことができた」と笑顔で帰る参加者が多くおり、参加者にとって満足度の高い2日間であったことが伺えた。

## 9 成果と課題

親子別れてのプログラムを実施したことで、子供達が親と離れて、初めての挑戦や体験をすることができた点は、本事業の趣旨である「自己肯定感の向上」に繋がったと考える。また、保護者アンケートの結果からも、普段あまり出会わない同じ境遇の親同士で時間を共にすることで今後の励みになったり、子供の新たな一面が見られたりして、非常に有意義だったことが伺える。

今後の課題としては、アンケート結果から、保護者に対して子供達の活動内容をより詳細を伝えることが挙げられる。子供は新しい環境を楽しんでいたが、親はこちらの想像よりも子供と離れて活動することに対して心配しており、活動内容や準備物を丁寧に伝えることで、より安心して親のみの活動を楽しみ、有意義な時間にすることができると感じた。来年度は子供だけでなく親の心情にも十分配慮しつつ、今年度と同様に親子別れての活動を実施していきたい。